

1 部

学習サポート

12 / 13 ~ 1 / 31の各種申込締切一覧

通信教育部では各自のペースで学習していただくことを基本としておりますが、各種の申込みは下記の日程必着をお願いいたします。

(注) 備考欄の『レポート課題集』参照ページについては、『試験・スクーリング 情報ブック2014』1部に記載の変更内容も併せてご確認ください。

■全学生に関連するもの

	提出物	締切日
1月科目修了試験	レポート・申込みハガキ	12月19日(金)
冬期スクーリングⅡ (1/10~1/25)	申込みハガキ	12月18日(木)
冬期スクーリングⅢ (2/7~3/1)	申込みハガキ	1月15日(木)
オンデマンド・スクーリング	Web上で申込み	12月15日(月)正午ほか 『With』103号 p. 46, 本冊子 p. 42表参照
特講・福祉心理学4 履修登録・スクーリング申込み	履修登録用紙	12月24日(水)
特講・社会福祉学17 履修登録・スクーリング申込み		
1月在宅web科目修了試験	レポート・申込みメール	1月13日(火)正午

	受付日
<p>レポート</p> <p>(レポートはいつ提出してもよいものですが、受付日の午前中到着分までについて、まとめて教員に依頼します。ひとつの提出目標として目安にしてみてください。)</p>	<p>12月19日(金) 12月25日(木)</p> <p>1月8日(木) 1月15日(木)</p> <p>1月27日(火)</p>

※「スクーリング受講者専用別レポート」締切：(郵送) 受講後1カ月以内
(オンデマンド) 5部参照

■社会福祉援助技術演習・実習関連

	提出物	締切日
<p>★社会福祉援助技術演習C (2日間連続型) スクーリング受講申込み (『With』97号巻末申込用紙)</p> <p>※12/20までの受講条件達成も必要。</p>	<p>2月受講希望者 →12月20日(土)</p> <p>※実習免除者・科目等履修生での実習希望者対象</p>	<p>(注) 『レポート課題集2014(社会福祉編)』 「★演習C」 p. 142~146 「◆指導」</p>
<p>★社会福祉援助技術演習C 3単位めレポート</p>	<p>11~2月受講済者 →1月9日(金)</p>	<p>p. 196~198 +『試験・スクーリング情報ブック2014』</p>
<p>◆社会福祉援助技術現場実習指導(事後) 課題3-① (実習事後レポート)</p>	<p>2/11受講希望者 →1月20日(火)</p>	<p>p. 36~37</p>

■精神保健福祉援助演習・実習関連

	提出物	締切日
■精神保健福祉援助演習A 2単位めレポート (スクーリング事後レポート)	12/13・14受講者 →1月10日(土)	(注) 『レポート課題集 2014(社会福祉編)』
■精神保健福祉援助演習C 2単位めレポート (スクーリング事後レポート)	11/29・30受講者 →12月20日(土)	「■演習A」 p. 237～240 「■演習C」 p. 246～249
■精神保健福祉援助実習指導A 課題3-② (実習A事後レポート)	1/24・25受講希望者 →12月20日(土)	「■指導A」 p. 250～253 「■指導B」 p. 254～257
■精神保健福祉援助実習指導B 課題3-② (実習B事後レポート)	2/14・15受講希望者 →1月10日(土)	「◆★演習」 p. 266～270
◆★精神保健福祉援助演習 2単位めレポート	11/15・16受講者 →12月20日(土)	「◆★実習」 p. 271～278
◆★精神保健福祉援助実習 課題3-② (実習事後レポート)	2/14・15受講希望者 →1月10日(土)	+『試験・スクーリング 情報ブック2014』 p. 37～41

■教育実習・障害者(児)教育実習・介護実習関連

	締 切 日	備 考
介護実習事前事後指導 1 単位めレポート (スクーリング事前レポート)	1/10~12受講希望者 →12月20日(土)	『レポート課題集 2014(心理・教職編)』 p. 161~168
教育実習・障害者(児)教育実習 誓約書・健康診断書(・個人調 査票のコピー)提出	2月実習開始者 →12月15日(月) 3月実習開始者 →1月15日(木)	※事前指導受講済 者のみ対象
障害者(児)教育実習の事前・事後指導 事前指導スクーリング受講免除希望届	3/28・29免除希望者 →12月15日(月)	『レポート課題集2014 (心理・教職編)』 p. 254~259

■そ の 他

●心理学実験Ⅰ・Ⅱ

- ・単位認定レポート提出期限 12月24日(水)

●3月卒業希望者

- ・初回レポート提出期限 1月10日(土)

●転学科希望届提出締切(4月生のみ) 1月20日(火)

●卒業研究

- ・提出締切(社会福祉学科・社会教育学科のみ) 12月18日(木)
- ・提出締切(福祉心理学科のみ) 1月30日(金)

レポート提出も心理学実験のうち…かも

今年度も残り少なくなってきましたが、皆さん学習性無気力に陥らずに過ごしていらっしゃるでしょうか？レポートが進まないと嘆いている方は、最初から「優のレポート」「再提出にならないレポート」を目指してはいないでしょうか？

レポートというツールを使って教員に刺激を与え、その反応（つまり添削）を集めて担当の先生の考えを理解する…まさに心理学の研究姿勢の基本というつもりでぜひ進めていただければと思います。そして、一回だけの反応だけではなく何回かの反応を集めた方が正確な理解が進むのも当然です…そう考えれば、再提出も怖くないかな、と何となく思えるようになってきませんか？（笑）

さて、私はスクーリングで学生の皆さんと直接お会いできるのを楽しみにしています。例えば休憩時間に喫○所で雑談をするだけでも、みなさん本当にさまざまな目的で心理学を学ぼうとしていることが伝わってきます。今回は、心理学を学ぶ意味について、「私なりの価値観」で書いてみたいと思います。

心理学と資格

さて、心理学系の国家資格として、「公認心理師」が騒がれています。もし実現すれば、心理学系としては初の国家資格の実現になりますが、本稿を書いている現段階では衆議院が解散してしまうようで、以前の郵政民

営化国会の時と同様、法案の成立は少し延期になりそうな気配です。

これまでも心理学には「認定心理士」「臨床心理士」「健康心理士」など多くの資格が存在してきましたが、どれも国家資格ではなく、簡単に言えば「大きめの心理系の学会や団体ひとつひとつが独自の資格を独自に出してきた」わけです。近い将来、公認心理師が実現した場合には、この混沌とした状態が解消されるのを望むばかりです。

通信教育部では、福祉心理学科で認定心理士の資格を取得することはできますが、そのためには「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」や「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」の単位修得が必要です。もしかすると皆さんの中には「医療や教育、福祉の現場での支援に応用するため、実験をするため、研究をするために入学したんじゃない」と思う方もたくさんいると思います。さらに、認定心理士だけでは「すぐには職業に直結しない」ということも何となく理解されていると思います。では、皆さんにとって（私もですが）心理系資格を取得する意味、そして福祉心理学科以外の方が心理系科目を履修する意味は何なのでしょう？

心理的支援が有効な現場は多彩

日本でまだ臨床心理学という分野が今ほど広がっておらず、カウンセラー関係の資格もなかった昔は、「近くにいる、信頼できそうな誰か」が心理的支援を担っていました。相談内容によって教職経験者や大学の心理系教員、保育士さん、看護師さん、ご近所のご意見番、シャマンの方などなど。その当時の心理的支援の方法の可否については触れませんが、それで解決できたケースも多かったわけですし、そのお礼は「お酒」や「菓子折り」だったりしたわけです。つまり、「資格」にではなく、「人間性」に支援を求めているということになります。心理検査などを実施することもなく、経験による草の根のカウンセリングが行われていた時代です。人と

人とのつながりが、心理的支援の根底を支えていたといえるかもしれません。

現在は医療、福祉、教育、心理に関する現場が多様化しており、そのどれもが人間と人間が密にコミュニケーションをとる必要がある現場です。確かにどの現場でも専門的な知識と技術が要求されますが、例えば「どんなにいいアドバイス」を持っていても、アドバイスする側の人間が嫌われてしまったら、その効果がないことは当然です。「何を言われるか」よりも「誰に言われるか」です。もしかすると、このページ最初の執筆者の名前を見ただけで、読む気をなくしてしまった方がいるかも、ですね。相談者、利用者にとっては、目の前にいる専門家が頼りですので、その専門家を人間的に「好きか嫌い」が重要になってきます。

多くの「偏った価値観」を受け入れる

そこで、心理カウンセラーの専門家ではなくとも、まるで心理カウンセラーのように周囲の人の話を「受容と共感」を持って傾聴できる人材が広く活躍することになります。緊急のアドバイスが必要な現場も多いはずですが、それでもその根底には受容が必要であり、自分のアドバイスを一方的に主張するような支援は受け入れてもらえないでしょう。

受容とは、簡単にいえば、「まずは、相手の価値観をそのまま受け入れてあげること」です。偏った価値観を押し付けたり、相手の価値観を理解できなければ、人間関係がうまく進むとは思えませんね。ですから一般には「偏見や思い込みで物事をみたり、考えたりしてはいけない」と言われますが、実は人間の認知の特徴のひとつに「思考の省エネのために偏見や思い込み、第一印象、自分らしいスキーマで考える」ことが挙げられます。例えば交番に行くときに「ここは本物の交番だろうか、本物の警察官だろうか、この警察手帳は本物だろうか」と、「思い込み」を捨ててひと

つひとつ疑問に思うような人がいたら、周囲の人だけではなく本人も大変面倒くさい毎日を送ることでしょう。だからこそ、息子を名乗る電話を最初の段階で信じてしまったら、どんな不自然なあらすじでも詐欺にひっかかってしまうようなことも起こります。

このように、人間関係は「偏った価値観を持っている人間同士の関係」ですので、さまざまな現場で支援にかかわる場合には、どんな価値観がきても驚かない必要があります。そのために、どのような人はどのような時にどのような心理状態になり、それを支援するにはどのような方法があるか、というレポトリーをできるだけたくさん懐に忍ばせておくことが、支援を円滑にしてくれるでしょう。そして、それを助けてくれるのが「心理学の多くの分野にまんべんなく触れておく」ことです。心理系資格の取得には多くの心理分野の履修が必要ですので、いつの間にかそれができずし、福祉心理学科以外の方でも、科目をいくつか履修してみると新たな発見があると思います。

漢方薬としての心理学

前述したように、心理系の資格を取得しても、すぐに就職に結びつくとは限りません。しかし、どんな現場のどんな職種についていても、職業上だけでなく日常の家庭生活や友人、恋愛、育児などで、いつか何かしら応用できる瞬間があるかもしれません。就職という即効性はないかもしれないけれど、自分自身を振り返り、様々な価値観に触れ、受容的な考え方ができるようになった経験は、まるで体質改善のように、いつかどこかで自分の活動を助けてくれるかもしれない「漢方薬のような効力」があると私は信じています。

実を言えば、大学の教員は他の先生方がどのような価値観でどのような講義をしているかについてはお互いによく知らないものです。その反面、

学生の皆さんは様々な先生の様々な価値観に同時に触れることが可能です。同じ心理現象について、全く違う切り口で講義を受けるということもたくさんあります。それら多くの原材料から、皆さん自身が一番自分にあう漢方薬として統合し、いつか応用できる瞬間があるはずですよ。

それが、偏った価値観から述べた「今、心理学を学ぶ意味」です。どうか受容を！